

血液がんサロン

第3回

病気を診断された、再発したときの思いを語り合いましょう

(医師や看護師、他の患者さんといろいろな話をしてみましょう)

日時2016年5月28日(土) 14:00~16:15
原三信病院 第1会議室 (案内図をご参照下さい)

原三信

第Ⅰ部 講演(60分)

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの病気が診断された、あるいは再発したとき
患者さん、医療者は、どのように感じ、思い、病気に立ち向かっているのでしょうか。

1. 悪性疾患の診断や再発を伝えるとき — 医師の立場から — (20分)
血液内科 医師 上村 智彦
2. つらさと向き合う患者を支える — 看護師の立場から — (15分)
がん化学療法看護認定看護師 (東8階病棟) 横田 宜子
3. 病気を初めて診断されたとき、再発と診断されたとき [仮題] (25分)
患者 山口 加麻里

休憩・移動時間 (15分)

第Ⅱ部 フリーディスカッション(60分)

テーマ：病気のことを伝えられてから、どのようにして、つらい気持ちの中、
病気と向き合い、治療を受けて来られましたか？
患者さん、ご家族の方の思いを、語り合いましょう。

3グループに分けて(第1会議室 2グループ：第8会議室 1グループ)

医師、看護師、社会福祉士(ソーシャルワーカー)、理学療法士の
アドバイス、そして何より、他の患者さんやご家族のお話を
聴くことができます!

原三信病院血液内科で治療中または通院中の患者さん、
ご家族の方、どなたでも参加いただけます。是非一緒に
病気のこと、治療や生活のことを考えましょう。ご希望
の方は、主治医、看護師に申し込み用紙をお渡し下さい。





2016年5月28日（土）

14:00~16:15

原三信病院

第1会議室

ヒノマルビル 4F

第I部 ① 医師 上村 智彦

病名を告げられて、すぐに自分の状況を理解して治療に前向きな気持ちになることは難しいことです。本来は、心の準備をする時間をとってあげたくても、早期の治療開始が望ましい場合など、「いきなり」病名や抗がん剤治療の必要性を告げなければならないことも少なくありません。そうした中での患者さんの気持ち、私たちが心がけることなどを、エピソードを交えて紹介します。

第I部 ② 看護師 横田 宜子

病気を告げられたとき、信じられない思いや悲しみ、「なんで自分が!」といった、さまざまなつらい感情が湧き上がるのは自然なことです。そのようなつらい思いに少しでも寄り添いたいと、定期的に伺いお話し聴く機会をつくっています（移植外来では、退院後も患者さんに面談しています）。患者さんが、つらい思いの中で、病気を克服しようという思いを培って行く経過などをお伝えします。

第I部 ③ 患者 山口 加麻里

最初の異変はリンパ節の腫れ、しこりに気付き、病気が分かるまでに4ヶ月間かかったことや、4ヶ月の間に日に日にしこりの数が増える事に対する不安など、まず最初に診断されるまでの出来事や感じたこととお話しします。10ヶ月間、闘病生活を送り、退院後も治療を続けていたのですが、4年後に再発したときのこと、そして臍帯血移植を受けるまで体験を聴いていただきます。